



ファイナンシャル・プランナー

竹下 さくら

85歳まで入れる「終身医療保険」

医療保険といえば、一昔前までは保障期間が最長80歳まで、申し込みは60歳代までのものが一般的で、相談者からの求めに応じて70歳代でも入れる医療保険を探すのが大変だった。

今世紀に入ってから、保障期間が生涯の「終身医療保険」が台頭し、70歳代で健康なら複数社に申し込みが可能になった。そして「人生100年時代」がうたわれる今、85歳まで申し込みができる保険会社が相次いで登場し、保障の充実したプランも得られやすい状況となった。

イオン・アリアンツ生命の「元氣パスポート」(無解約返戻金型終身医療保険)なら、男女ともに0歳から85歳まで契約が可能だ。入院・手術・放射線治療を保障する主契約に、入院一時給付特約など八つの特約を付帯できる。85歳の月払い保険料は、男性5902円、女性5939円となる(注1)。

入院給付日額は、30000〜2万円(10000円単位)で設定可能。手術給付金は手術I型(支払額は入院中が入院給付日額の10倍、外来は同5倍)のほかに、手術II型(支払額は入院中が手術の種類に応じて入院給付日額の10、20、40倍、外来は

同5倍)から選択でき、給付限度日数は60日型と120日型から選べる。

なお、健康診断等の結果を提出(契約者のマイページで画像をアップロード)すると、契約者向けサービスとして「謝礼金」や、一定基準で「健康支援金」が受け取れることから、保険料の負担を現実的に軽減する効果がある。謝礼金は、口座振替の場合は3000円、W A O N ポイントで受け取る場合は5000円だ。

一方、健康支援金は、BMI(体重(kg)÷身長(m)の2乗)が18・5以上25・0未満、血圧が収縮期129以下かつ拡張期84以下などを満た

した場合に受け取ることができる。30歳の月払い保険料が男性1008円、女性1238円の場合、健康支援金は男性660円、女性810円となり、現金またはW A O N ポイントで1年に1回受け取ることができ(注2)。

(注1) 保険期間・保険料払込期間:終身、入院給付日額:50000円、給付限度の型:60日型、手術給付金の型:手術I型、放射線治療給付金:入院給付日額の10倍、先進医療特約:口座振替の場合。

2 年齢・性別・他条件によって異なり、20〜69歳が対象。

FPの視点

老後の医療費は貯蓄と保険で

もともと、医療保険は高齢になるほど関心が高い。最近では、以前に医療保険への加入を検討したときには契約可能年齢を超えており申し込みを断念した人が、高齢でも入れるというCMを見て、あらためて契約を検討するケースが急増している。

検討に当たっては、本人が保険金を請求できない事態を想定

して指定代理請求人を定めることや、医療保険に入ったことを家族で共有し、家族情報登録制度を活用することが望ましい。

老後の医療費は貯蓄での備えを基本にしながら、医療保険についても複数の見積もりを比較することで費用対効果をよく吟味し、家計に優しいプランを選択することが特に重要だ。

※毎月1回掲載します。